

青森市所蔵作品+ふるさかはるか展覧会 「土のことづて」



ふるさかはるか、《織り Cuoldin Weaving》版本（部分）、2014年

【展覧会概要】

展覧会名 青森市所蔵作品+ふるさかはるか展覧会「土のことづて」
日 時 2017年4月29日（土）-6月18日（日）10:00-18:00 会期中無休、入場無料
会 場 国際芸術センター青森 ギャラリーA
主 催 青森公立大学国際芸術センター青森
協 力 青森市教育委員会、ホテル山上、AIRS

【お問い合わせ】

青森公立大学国際芸術センター青森
〒030-0134 青森市合子沢字山崎 152-6
TEL: 017-764-5200 FAX: 017-764-5201 ホームページ：<http://www.acac-aomori.jp>
担当学芸員：金子由紀子 kaneko@acac-aomori.jp

【展覧会について】

青森市は、古い衣類や日用品などの民具や、こぎんや津軽塗などの伝統工芸品、青森ゆかりの美術家による美術作品など、地域の暮らしを伝える資料や作品を所蔵しています。本展は、それらの青森市所蔵作品を現代に生きる私達の視点で見つめ直すプログラムです。

本展では、土、草、木などの素材に着目して選んだ民具、青森の風景を描いた版画や絵画などの青森市所蔵作品を展示し、青森の人々の生活にどう自然が関わってきたかを提示します。それらと共に、大阪在住のアーティストふるさかはるかさんが、ヨーロッパの北極圏に暮らすサミ族の村での滞在経験を基に制作した木版画作品を展示します。青森市所蔵作品とふるさかさんの作品を並置することで、自然と共に生きてきた人間の暮らしの知恵や工夫、自然観などを浮かび上がらせることを試みます。

【展覧会の見どころ】

<土から生まれるもの道具へ>

縄文土器が土をこね焼くことで作られたのは勿論のこと、道具に使われる木や竹、衣類に使われる麻や綿などは植物であり、種子が土の中で育まれることで、人間が使えるまでに育ちます。展覧会場では、所蔵品の素材に関連させて、土から植物が生まれやがて森になるまでに、人がどんな素材をどう加工して道具に仕立てるのかを追って見ることができます。

<青森の美術家たち>

本展では、民具や伝統工芸品と共に青森市ゆかりの美術家の木版画や絵画作品を展示します。山口晴温の《そま夫風俗》や根市良三の《雪国》など、青森の美術家が身近な自然やそこで生きる人々へ向けたまなざしが感じられる作品を中心に展示します。

<ふるさかはるかの作品と北極圏の人々>

ふるさかはるかさんは14年前からヨーロッパの北極圏でトナカイと共に暮らすサミ族の村を度々訪れ交流しています。その中で、サミの人々が手作りする暮らしの道具や、トナカイを世話する時の習慣などは、サミ独自の自然観の上に形づくられていることに気づき、人間と自然を媒介するものとして道具があると考えるようになりました。本展で展示するサミの村での体験を基に制作した木版画作品からは、サミの人々の自然との付き合い方が見え隠れします。



ふるさかはるか、《葉隠れ Suodjeivdnen Camouflage》木版画、版木、2014年

<青森の人々と自然との関係をリサーチする>

展覧会会期中には、ふるさかさんが講師を務めるワークショップ「山のことづて新聞」を開催します。当ワークショップでは、ガイドさんと共に実際に山歩きをしたりガイドさんにインタビューしたりしながら取材をし、それを参加者の方が木版画で記事にして壁新聞を制作します。出来上がった壁新聞は展覧会終了まで館内に掲示します。取材と壁新聞制作を通じて、青森の山の様子や山の恵みを受け取る人の姿がどういうものであるかに迫ります。

ふるさかはるか

フィンランド、ノルウェーなど極北での滞在制作をはじめ、国内外のアーティスト・イン・レジデンスや大学などで、日本の風土で育まれた水彩木版画技法のワークショップや作品発表を多数行う。1999年武蔵野美術大学油絵学科卒業。2010年より「木版画アトリエ空中山荘」を立ち上げ、2012~2014年フィリピン山岳地方での環境教育プログラムで、土絵具と木版画によるワークショップや展覧会を開催。2014年には十数年間交流を続けてきた北欧の先住民サミの人々の手工芸をテーマにした作品を発表。身近にとれる土から絵具をつくるなど、木版画の自然素材を異なる時代や風土に読み替える作品・場づくりを展開している。www.harukafurusaka.net | www.kucyusansou.com

【関連イベント】

■展覧会オープニング・アーティストトーク

4月 29日（土）14:30-15:30

同時開催の2つの展覧会の参加アーティストが自身の作品についてお話しします。

出演：ふるさかはるか、福田紗也佳

■「山のことづて新聞」※3回連続

山での活動を絵で伝える「山のことづて新聞」をつくります。記者になった気分で山歩きやガイドさんへのインタビューをしながら取材をして、一人一つ木版画で記事をつくり、最後に全員分を貼り合わせて新聞に仕立てます。同じ図柄をいくつも刷ってみんなで分け合うことができる木版画の特性をいかして、参加者全員分の新聞をつくりましょう。

対象：小学校高学年以上、3回参加できる方

定員：15名

参加費：500円

▼1日目 山菜取り 5月3日（水・祝）10:00-15:30

山に詳しい人をガイドに、みんなでACAC周辺の森を山菜を探りながら散策します。ガイドさんには山菜料理のお話や山でのエピソードなどをお聞きします。

▼2日目 木版画その1 5月20日（土）10:00-15:30

1日目の山歩きを題材に、壁新聞の構成を考え、木版画の下絵を制作し版木を彫ります。

▼3日目 木版画その2 5月21日（日）10:00-15:30

木版画を彫って摺ります。刷り上がった作品を、壁新聞用紙に貼り付け壁新聞の形にします。壁新聞はお持ち帰りいただけます。

■「山の報告会」 6月18日（日）14:30-15:30 会場：ラウンジ

ワークショップの成果発表を兼ねて、ふるさかさんがワークショップや青森でのリサーチについて、展覧会や自身の作品の話を交えながらお話しします。

【同時開催】

ヴィジョン・オブ・アオモリ vol.15 福田紗也佳「さきさきをかむ」 会場：ギャラリーB